

「国富論」の第4編はほぼすべてを重商主義批判に割き、輸入制限の2つの方策と輸出奨励の4つの方策を批判的に検討している。

重商主義は輸入に制限を与え、自国の輸出産業を保護する。規制や保護からは既得権益が生まれる。既得権益を守るため、あらゆる理由を付けて新規の参入を阻止することになる。腐敗や汚職も生まれやすくなる。保護が行われると、競争

危機・先人に学ぶ **アダム・スミス**

## 損失生む規制・保護

が無いので創意工夫が必要ない。やる気も失われる。生活保護を考えても、仕事を探すインセンティブを無くしてしまうことが問題視

される。そのうえ、働いて賃金を得れば、その分だけ生活保護で受け取る金額が減らされてしまう。同じことが保護される産業でも生じる。努力しなく

ても利益を維持できるので、国際競争力が失われていく。輸入が制限された結果、国内の財の価格が上昇

し、保護された生産者は利益を得て、高い生産物を買わなければいけない消費者は損失を被ることになる。生産は消費のために行うのであって、生産者の利益は消費者の利益を促進する

のに必要な場合のみ正当化されると考えるスミスは、「重商主義では、消費者の利益はほとんどつねに生産者の利益の犠牲にされてお

り、消費ではなく生産が、すべての産業や商業の究極的な目標であり目的だと考えているように思われる」（水田洋監訳）と批判する。このような規制や法律

西村 和雄

は、産業の既得権を守るだけでなく、官僚に権限と利益をもたらすことにもなる。意味のない法律を作り、一般国民の利益にならない活動を必要にさせることになる。スミスは国富論でこ

うも述べている。「大国民が私的な浪費や不始末によって貧しくなることは決してないが、公的な浪費や不始末によってそうなることはとぎとぎある」最近は、制度や政治の要

因を入れた多様な研究が盛んになされているが、グローバル化を進めることによる国内総生産（GDP）の伸び率は、汚職の多い国に比べて、汚職の少ない国の方が大きいという研究結果がある。国内の市場が過剰な規制で守られているなら、グローバル化の恩恵も

得られないのである。不適切な規制はやがて、産業の競争力を低下させ、国力を衰退させる。

「国富論」の第4編はほぼすべてを重商主義批判に割き、輸入制限の2つの方策と輸出奨励の4つの方策を批判的に検討している。重商主義は輸入に制限を与え、自国の輸出産業を保護する。規制や保護からは既得権益が生まれる。既得権益を守るため、あらゆる理由を付けて新規の参入を阻止することになる。腐敗や汚職も生まれやすくなる。保護が行われると、競争

無いので創意工夫が必要ない。やる気も失われる。生活保護を考えても、仕事を探すインセンティブを無くしてしまうことが問題視される。そのうえ、働いて賃金を得れば、その分だけ生活保護で受け取る金額が減らされてしまう。同じことが保護される産業でも生じる。努力しなく